

子どもアンケートを実践しよう

～付録「憩いの水飲み場」大作戦～

砂川市立空知太小学校
橋本 俊一

空知支部の砂川地区（砂川市、歌志内市、上砂川町、奈井江町、浦臼町）の協議会では、会員を「子どもアンケート」グループと「事務だより」グループに分けて研修を具体化し、それを全体研修により共有化して、各人の実践の一步をめざす研修をすすめている。

今回の発表は、子どもアンケートによる学校づくりの実践の紹介と、さらに「子どもアンケート」グループが現在とりくんでいる、アンケートを実施するための環境づくりについてのレポートである。

1. 憩いの水飲み場

2009年4月歌志内市立歌志内中学校は、校舎老朽化のため、2年前に閉校した歌志内高等学校の校舎に引越しをした。移転に伴い、高校と中学校の違いから校舎改修が行われたが、旧産炭地であり日本一人口の少ない市、歌志内の台所は厳しく、十分なものとはならなかった。

そんな中、以前から続けていた子どもアンケートをきっかけに学校の環境整備にかかわることができた。その経過を報告する。

(ア) 子どもアンケート

次の項目について毎年実施している。

- ① 校舎で「ここが壊れているよ」「ここをこのように直してほしい」「直さないと危険だよ」というところはありませんか？
- ② 毎日の学習や部活動で「こんなものがあったらいいな」「こんなものを買ってほしいな」というものはありませんか？
- ③ 登下校で「ここは危ない」と感じるところはありますか？

結果については、教育委員会への予算要望書に生かして、ヒアリングで説明をしている。

(イ) 校舎移転とおいしい水

歌志内高校の校舎を中学校として利用するため、給食の搬入スペースの確保や老朽化した体育館の床の全面改修などを行った。旧歌志内高校には水飲み場がなく、トイレの入口にある手洗い場で対応するしかなかったため、蛇口を360度回転式に交換した。その年の子どもアンケートでは、2階3階の水の味についての要望が目についた。移転直後から問題となっていたため、水質検査も行ってもらったが、結果は「問題なし」であった。学校祭に来た小学生に「水飲み場はどこ？」と聞かれ、さらに「水飲み場は別にしてほしい」という生徒の声を受け、予算要望の優先順位1位として水飲み場の設置を要望した。

(ウ) 水飲み場の設置に向けて

2009.4 旧歌志内高校校舎に移転。トイレ入口の流し台の蛇口を360度回転式に交換。

2011.10 「H24年度学校施設にかかわる補修・修繕及び改修事業等の要望調査」～優先順位1位に「生徒玄関空きスペースに円形の水飲み場（憩いの水飲み場）の設置」を希望。

- 〃 10.12 市教委主査来校、要望・現場確認。
- 〃 10.21 建設課水飲み場設計図持参、来校。下足箱と同じ高さを希望。
- 〃 11.8 建設課要望調査にかかわる現地確認来校。
- 〃 11月「H24年度予算要望書施設設備整備関係」の優先順位1位とする。
- 〃 11.21 予算要望ヒアリング～市教委へ教頭・事務職員出向。
- 〃 11.30 市長・教育長・建設課長等現地調査・確認来校。

*水飲み場に190万円は高すぎるとの声もあり、市長裁定？まで持ち込まれたらしい。市教委の担当からも、ダメだった場合「1年待ちますか？」それとも「安上がりの方方法にしますか？」といった問い合わせがあった。「1年待ちます！」と回答した。

2012.4.10 予算担当者会議資料に「水飲み場新設工事」生徒玄関工事予算44万円と記載あり（壁取付で1.5mのシンクを2台並列に設置する構想での予算づけとなる）。

2012.7.17 工事業者（いつもの顔見知り）が設置前に学校側の希望を確認するため来校。

＊壁取付は学校の希望と全く違うこと、鏡・電灯の設備も全くないことなどから、こちらの希望を伝える。入札価格で学校の希望の場所に設置は可能との回答をもらう。

＊市教委・建設課に上記のことを報告する。建設課では業者から連絡が来ないと対応できないということで、業者からもその旨を報告してもらう。

＊7月末より生徒玄関の段差解消・給排水工事が始まり、蛇口についても実際に練習中だったバレーボール部で一番小柄な生徒に来てもらい取付位置が決定した。

〃 8.7「憩いの水飲み場」とは胸を張っては言えないが、生徒玄関の空きスペースに完成する。

(エ) 子どもアンケートを続けること

アンケートを実施するときに、昨年度の結果を紹介し、またアンケート結果にも報告をしている。2012年度の秋には、次のような文章を書いた。

「昨年ヒアリングでは水飲み場をメインにお話をし、アンケート用紙にも書きましたが、完成したものが生徒玄関の『水飲み場』です。今後とも、皆さんの声を大切に、快適な学校環境づくりに努力したいと思いますので、よろしく願います。」

そして、2013年度のアンケートも別紙のように実施し、継続してとりくんでいる。

2. 子どもアンケートにとりくんでみよう！

やってみよう。興味がある。そんなあなたの背中を後ろからドンと押してあげたい……

(イ) 次の場面での提案文例

初めて子どもアンケートにとりくむ際は、職員会議でいきなり提案するよりも、時間はかかるが年度末反省・新年度計画会議を経て、職員間での共通理解をはかるのがよい方策かと思える。さらに運営計画の中に表記されていたら挑戦しやすくなる。そこで年度末反省などの場面で提案する文例を考えてみた。

「これは！」というものがあれば、どんどん使っていただきたい。まずは様々な場面で提案することで運営計画に載せ、自分を追い込んでみる、という使い方も考えられる。

砂川地区では子どもアンケートの目的や意義、方法などを様々な角度から考察し、なかなか一步を踏み出せない仲間はどうサポートするか研修をすすめてきた。

(ア) 子どもアンケートがもたらすもの

- ① 予算要望の有効な資料となる。
- ② 子どもたちと交流できる。
- ③ 職場の話題の中心となれる。
- ④ 児童会、生徒会と交流できる。
- ⑤ 職員会議で発言できる。
- ⑥ 事務職員の存在をアピールできる。
- ⑦ 事務だよりを出すことができる。
- ⑧ 学校を知ることができる。
- ⑨ 創造的な領域の実践を語るができる。
- ⑩ 子どもを中心とした学校づくりの一員となれる。

などなどが考えられる。つまりこれが目的となり意義と言えるのではないだろうか。

まだとりくめていない学校からは、次のような意見があった。

- ① 下地がない。先生方が年中忙しそうに頼みづらい。
- ② 運営計画に記載がない。年度末反省、新年度計画会議に出していない。
- ③ 子どもの数が多く、集約・集計・返答の作業が大変そうだ。
- ④ 配分予算が少なく子どもの要望に応えてあげられない。

これらのことから、子どもアンケートを実施するための職員会議等、場面ごとの提案文例や手順をマニュアルとして作成しみることにした。

場面	観 点	提 案 文 章 例 ・ 記 載 例
年度末反省で	予算要望	予算要望書に児童(生徒)の要望も取り入れたい。
		教職員全体からの要望をくみ上げると同時に、次年度は子どもたちの声も聴いてみたい。具体的な方法としては「子どもアンケート」を実施する。できればそれを予算要望の参考にしていきたい。
		予算要望について、教職員だけの要望となっている。児童(生徒)の声を反映させた予算要望にしていきたい(〇・〇・〇年生にアンケートを取らせてもらいたいと考えている)。
		予算要望の調査・集約にかかわって、今年度は職員への要望調査のみにとどまった。子ども(保護者)の意見も取り入れた予算要望活動を展開すべきであったと考える。来年度に向け、子どもアンケート等の実施について検討していきたい。
	児童会・生徒会 ／子ども自身が 考える環境	来年度に向け、児童会(生徒会)係と連携し、児童会(生徒会)活動の一環としての環境整備(生活の場としての学校づくり)について検討していきたい。
		児童(生徒)の目線で、自分たちの学習環境・生活環境について考える機会が必要ではないか。
学校事務運営 計画に記載が ない	来年度、児童(生徒)アンケートを実施し、子どもの声を予算要望書に反映させたい。なお、学校事務運営計画に記載がないため「児童(生徒)アンケートの実施」について項目を新たに追加したい(新年度計画で提案)。	
新年度計画で	予算要望	予算要望書の作成にあたり、職員から調査活動を行う。また、児童(生徒)・保護者からの意見も参考にする。
		子どもアンケートを実施し、児童(生徒)の意見を取り入れた要望書づくりをする。
		予算要望に向けて児童(生徒)の意見を聴くために、アンケートを行う。 * 期日 〇月第〇週～〇月第〇週 * 対象 ◇年生以上 * 配布・回収 担任 * 集計・分析 事務職員 * 内容 直近の職員会議で提案
		予算要望活動の充実および子どもの視点に立った教育環境の整備・改善のため、来年度〇月ごろ全校児童(生徒)または◇年生以上を対象に「児童(生徒)アンケート」を実施したい(将来的には保護者へのアンケートも検討する)。
	児童会・生徒会 ／子ども自身が 考える環境	児童会(生徒会)係・書記局と連携し、「毎日生活している学校のことを子どもたち自ら考える」とりくみを計画する(例えば、児童会(生徒会)企画のアンケートや書記局との対話など、詳細は別途職員会議で提案)。
	学校事務運営 計画に記載が ない	年度末反省での提案のとおり、事務運営計画を書き直したい(対象学年・設問等については、職員会議で提案する)。
予算要望活動の項目に・・・「児童(生徒)アンケートを実施し、子どもの声を予算要望書に反映させる」と新たに記載し、来年度夏から秋にかけてアンケートを実施したい。結果については全職員で共有した上で、事務だより等を活用し広くお知らせしたい。		

場面	観 点	提 案 文 章 例 ・ 記 載 例
学校事務運営計画に記載する例	予算要望	予算要望書作成にあたり、職員・児童(生徒)・保護者など広く調査する。
		「子どもの視点」が反映される要望書づくりに努める。
		児童向け「子どもアンケート」を実施し、教育環境・生活環境等への意識づくり及び予算要望(営繕要望)の資料とする。
		児童向け「子どもアンケート」を実施し、教育環境・生活環境等への意識づくりと、子どもの視点が反映される要望書づくりをめざす。
		予算要望書については、職員の視点、児童(子どもアンケートのとりくみ)・保護者の視点等を取り入れ、より良い環境をめざした要望書の検討を行う。
		予算要望にあたっては、要望をできる限りくみ上げ、全体の要望として生かすよう努める。
		児童の要望を取り入れていくよう調査、検討する(アンケート実施)。
		要望書の作成は、作成の観点・方法を提示し、全職員の要望以外に保護者・児童(生徒)・地域からの要望を取りまとめる。
		要望書は、通年的に施設設備・消耗品等、学校全体を把握し、子どもの声や願いなどが反映されるものをめざし、職員会議で協議・検討し作成する。 「子どもアンケート」を実施し、要望書に反映する。 保護者の声を集約する。
	校内の要求(子ども・保護者の要求を含む)を集約し、前・今年度実績を加味しながら、次年度に向けての予算要望書を作成する。	
児童会・生徒会	予算要求資料の作成と関係機関への働きかけ 予算要求活動は、全教職員及び児童会(生徒会)からの希望を集約し、原案を作成する。	

※それぞれの場面で、実際に提案をした実践資料については別冊参照のこと。

(ウ) 子どもアンケートを実施するときの職員会議での提案文書の項目ごとの文例

もしかしたら、いきなり子どもアンケート実施の提案をすることができる学校もあるかもしれないし、上記のような場面で環境を整えながら、用意周到に着々とすすめていく学校もあるだろう。次に用意するのは、実際の提案文書である。そのための文例を次のようにまとめてみた。

項目	文 例	観 点
目的・めあて	予算要望書の資料とする。	予算要望
	次年度予算要望に向けて子どもの声を反映させる。	
	予算要望に向けて児童の意見を聴くためにアンケートを行う。	
	子どもたちが自分の学校や身の回りを見つめ直す機会にする。	学習権保障
	子どもの学習環境・生活環境をよりよいものにするため調査する。	
	子どもたちに一日の大半を過ごす自分たちの学校のことを考えてもらう。	
	物・物資を大切にすることを考えるきっかけにしてもらう。	教育活動
	教職員も一緒に学校のことを考えていく。	共通理解
子どもの意見を確認し、教職員で共通理解をはかる。		

項目	文 例	観 点
期 日	6月最終週～7月の1週間	○いずれも、運動会、体育祭、中体連、学校祭、学芸会、そして予算要望の時期を考慮して設定している。
	7月夏休み前	
	9月第二週の1週間	
対象学年	中・全学年	○漢字が読めない小学校低学年は担任による聞き取りで対応するが多い。 ○小学校はフリガナで対応する必要もある。 ○町内小中1校ずつの実態から9年間同じアンケートにならない工夫をする。年度によるテーマ、カラーなど ○毎年同じでよい。
	小・全学年	
	小・456年生	
	小・246年生	
調査方法	期間内に担任の先生にお任せする。	
	担任の先生が説明しながら記入させて回収する。	
	配布してもらい、回収BOXにて回収する。	
	家庭に持ち帰り、保護者と一緒に記入してもらい担任の先生に提出する。	
	朝の会で配布して、その日のうちに(帰りの会など)回収する。	
	学活などの時間を利用し、その時間内に回収する。	
	記名する(後で確認したいこともあるため)。	
集 計	担任の先生が集約して、事務職員が全体集約する。	
	集約・集計は事務職員が行う。	
活 用	事務職員が集約、現状把握して職員会議に提示し、課題を共有し解決策を検討する。	
	集約したものを予算要望書と一緒に教育委員会に提出する。	
	職員会議で確認後に、事務だよりで子どもに返す。	
分 析	グループに分ける (対応ごと分類する)	○校内ですぐ対応できるもの
		○教育委員会に予算要望するもの
		○児童(会)・生徒(会)に考えてもらうもの
内 容	壊れているところ(もの)を教えてください。	
	危ないところがあったら教えてください。	
	ほしいものがあったら教えてください。	
	直してほしいところ(もの)があったら教えてください。	
	学校の中で楽しいところはどこですか。この学校の良いところはどこですか。	

※これらの文例を使って、実際に提案をした実践資料については別冊参照のこと。

3. 今後に向けて

研修の段階として今は、これらの文例集を全体に提示し、「それぞれの学校で実践してみよう！」「一歩踏み出してみよう！」という提案をしている。以前からとりくんでいる学校の実践例を参考にしながら、地区内全校実施をめざしている。さらにアンケートの項目や集約・集計のあり方、結果の返し方などの研修も深めていきたいと考えている。

まだまだ、マニュアルと呼べるほどのものに仕上がってはいないが、全道各地の学校でこの記載例・文例を使って、または参考にさせていただいて、とりくみの輪が大きく広がっていくことを期待している。